

令和7年度（2025年度）幼稚園評価報告書

園名	宝塚市立 長尾 幼稚園
----	-------------

1 学校教育目標

心も体も健やかな子どもの育成

2 重点目標

○ 主体的に生活する幼児の育成	○ 地域とつながり・人とふれ合う園づくり	○ 安全、安心な幼稚園づくり
○ 親子で育つ幼稚園づくり	○ 生命の尊さを大切にする幼稚園づくり	○ 評価、改善のある幼稚園づくり

3 学校自己評価結果（A：優れている B：良い C：おおむね良好 D：要改善）

領域	評価の観点及び評価項目	達成状況	学校の取組状況・改善の方策	4 評価項目ごとの学校関係者評価
園運営	開かれた幼稚園づくり	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年間を通して、直接体験・感動体験に重点を置き、幼児の活動を豊かに広げることができた。季節ごとに園舎北側の山での活動を遊びに取り入れたり、幼児の発達や興味関心に応じた野菜づくり、焼き芋、餅つき、囲碁やこま回し、木接ぎ、英語、絵本読み聞かせなど、積極的に地域みんなの先生や保護者ボランティア、小中学校とふれ合える機会を設けたりした。また、PTA 主催の「人権の腹話術」や「人権コンサート」を行う等、園・保護者・地域が手を携え園児たちに人とふれあう喜びや学びの推進につなげていくことができた。 ○ PTA 役員・保護者ボランティアによる図書の貸出し、保護者サークル「おはなしトトロ」を実施し、園児と保護者のつながりを深めたり、園児の体験の幅を広げたりすることができた。 ○ 年間を通して、お話広場、ドキュメンテーションの配信、毎日のホームページの更新、参観やバスデートーク等を通して子どもたちに園の様子をお知らせするように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎年継続し、地域の特色である木接ぎやだんじり、伝統文化であるこま回し、囲碁、薪を使つての焼き芋や餅つき、窯で炊くご飯、中学校教諭の出前英語保育等取り組まれており、人とのつながりを大切にし、心のふれ合いを重視していることが伝わった。どの活動においても、子どもが意欲的に活動していることが大変評価できる。また、このような取り組みについて、保護者からの評価も高く理解を得ている。地域の力を活かした人とのつながりを大切にしたい取り組みは素晴らしい。 ○ 子どもたちが、自分の親だけでなく、様々な保護者とかかわり楽しめる機会が増えた。 ○ 園の取組や子どもの育ちを、毎日HPの更新で外部へ発信し、ドキュメンテーションや連絡帳で保護者へと発信し、園での様子や楽しさが分かり安心できた。園の温かさやよさ、保育の中で大切にしていることがよく伝わっている。今後も続けていきたい。
	教職員の資質向上	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ すべての職員が笑顔と挨拶を大切にし、一人一人と丁寧に向き合うことを心掛けて日々の保育にあたった。 ○ 教師が常に新たなことに挑戦する気持ちや学ぶ意欲をもち、保育、研究に取り組んだ。幼児の意欲を引き出すための環境を考えた教材開発や職員間でのカンファレンスを基に、幼児ひとりひとりの学びに必要な環境について保育の視点や課題を明確にした保育実践に努めた。 ○ ICT を活用した新たなカンファレンスの方法を取り入れ、全職員で効率的に幼児のことを話れるように工夫した。 ○ 研究発表やドキュメンテーションの作成等、幼児一人一人の学びを可視化できるように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 先生たちみんなが明るく元気で、いつも笑顔である。子どもたちひとりひとりととても丁寧に見て、援助してくれているので、安心してお任せできた。 ○ 日々の保育や行事を見ても、いつも子どもたちの興味を沸き立たせ、新しいことに挑戦し、クラスの枠を超えて、みんなで協力していると感じる。 また、研究発表を聞いて驚くことばかりで、子どもの様子や遊びについてこんなに細かく見られている先生たちの熱量と頑張りがすごいと思った。保護者全員がこのような取り組みを聞く機会があればよいと感じた。 ○ このような取り組みをどんどん広めていっていただきたい。

	<p>危機管理体制の整備</p>	<p>○危機管理マニュアルに沿った実効性の高い訓練を実施</p> <p>○健康安全な生活習慣を身に着的けるための環境の工夫</p>	<p>B</p> <p>○安全・防災マニュアルに基づき全職員で共通理解を図りながら、様々な想定で（大雨時、土砂災害発生時、地震・火災発生時、園内外不審者侵入時、津波浸水）避難訓練を定期的実施した。小学校への2次避難、垂直避難の想定訓練、合同訓練を実際に行い、地域と連携した避難訓練に継続的に繰り返し取り組んだ。</p> <p>→歩き方や、自転車の乗り方等、安全指導の充実を図る。</p> <p>○様々な感染症への対応として、消毒・手洗いがいの徹底、必要な時はマスクの着用など、様々な感染防止を継続して実施している。また、保健衛生においても発達段階に応じた手洗いがい・咳エチケット・トイレトレーニング・食育・プライベートゾーンの指導等、発達に応じた保健指導に努めた。</p> <p>→定期的にできるよう計画する。</p>	<p>○危機管理意識が高く、様々な想定に対して全職員が一丸となって取り組まれていることが大変評価できる。子どもも真剣に取り組めており、命を守る行動について身についていることが大変評価できる。</p> <p>○2次避難では、3歳児の手を5歳児が引いて逃げていた。日頃からの自然な縦割りのかかわりが、このような場面でも見られ、いざというときの行動として助け合う気持ちが芽生えており素晴らしいと感じる。</p> <p>○途中で養護助教諭が交代されたが、引き続き、挨拶や食育、保健指導等を細やかに実施されており、基本的な生活習慣を身に付けていただけている。</p>
	<p>子育て支援の充実</p>	<p>○家庭の教育力向上をめざし、「親育ちの場」としての機能の充実</p> <p>○地域の未就園児親子の育ちを支援するための保育の場を提供</p>	<p>B</p> <p>○運動会や秋フェスタ、生活発表会等の行事、お話広場、連絡帳、ドキュメンテーション、バーズデートーク、子育て相談、お便り、個人懇談、ホームページなどで、個や集団の育ちについて発信したり保護者と共に子育てについて考えたりすることができた。</p> <p>→担任と保護者が直接話ができる時間を持ちにくかったようなので、降園後等に気軽に話せる時間を確保するなど、工夫する。</p> <p>○未就園児教室や毎日園庭開放を実施した。支援員による講話会を開催したりして、子育ての不安に寄り添う機会を設けた。今後も安心できる遊びの場、人とふれ合える場の提供に努める。</p> <p>→参加が自由だと足を運びにくいこともある。登録してもらい、ある程度集団教育の前段階が意識できるような取り組みを考えていく。</p>	<p>○昨年に引き続き、お話広場をしたり、みんなで並んで挨拶をして降園したりするなど、工夫をしてくださっていた。個人降園でなくなった分、声をかけにくくなった保護者もいるのかもしれない。園からのアナウンスを増やし、個別に話せることを伝えられるとよい。</p> <p>○園庭開放には、気軽に遊びに来られる雰囲気があるため、小さな子どもたちの遊び場になっているが、きょうだい関係がほとんどで、新たなお子さんが少ないとのことだが、園の努力や頑張りだけでは変えられる問題ではないと思われる。せつかくの機会と場所なので、市とも連携を図り、参加を呼び掛けるなど広報の仕方を工夫できるとよい。</p>
<p>教育課程</p>	<p>幼児期にふさわしい生活の展開</p>	<p>○保育の基礎・基本を大切に、遊びを通した幼児期にふさわしい保育内容の工夫</p> <p>○3・4・5歳児の発達年齢に即した主体的に学ぶ力や人とつながる力の育成</p>	<p>A</p> <p>○幼児自ら興味をもち「やりたい」と心を躍らせ、探究心をくすぐり、主体的に遊べる環境構成や援助を工夫した保育に努めた。</p> <p>自然体験や生き物とのふれあいなど感性揺さぶる遊びや、夢や創造を膨らませ、子どもの施行や想いを形にするべく、教師が柔軟に考えた保育を心掛け、様々な視聴覚機器を遊びの中に取り入れたことで、自分の気持ちを豊かに表現できる力につながっている。また、自分でめあてを決めて取り組む活動や苦手意識を克服する経験を重ねたことで、達成感を味わうことができ、子どもの自信につながった。</p> <p>○研究発表会を通して、地域や保護者へも、自分たちの研究や学びを広く発信することができた。</p> <p>○発達を的確に捉えたうえで、異年齢が混ざって遊びを展開するなど、縦のつながりを意識した保育実践を取り入れたことで、憧れや思いやりの気持ちを持ち、友達とのつながりも深まっている。</p>	<p>○子どもが常に意欲にあふれており、活気があり遊びに夢中になっている姿が見られた。子どもが主体的に遊びに取り組んでいることや、教師の本気が感じられた。昨年度に引き続き「子どもに考えさせる」「意欲を引き出す」ことに力を入れていることが伝わった。そのことから、自然と子どもたち自身にめあてが生まれ、あきらめずに取り組もうとする気持ちが育まれていたことも素晴らしい。</p> <p>○ときめきタイムでは、自分のことばで思いを表したり語ったりすることができる幼児が増えた。</p> <p>○長尾幼稚園は全園児が生活の中で一緒に遊び、生活しており、とても自然な形でかかわれていることがよい。</p>

教育課程	人権教育の推進	○幼児期にふさわしい人権意識の育成	B	○ 日常の遊びや生活の中で起こる問題に(言葉の暴力、仲間外れ、決めつけ等) 教師が気づき、子どもが振り返り考えられるような支援に努めた。教師間でその都度問題を共有し、人権意識を高めることができた。また、常に命の尊さについて考えられるよう取り組みを進めている。	○ 教師のかかわりがとても温かく。ひとりひとりの子どもを肯定的に受け止めてくれている。子どもも困っている友達に自然に声をかけられるようになった。また、子どものよい場面だけでなく、課題に対しても向き合ってください、保護者にも伝えてくださるため、共に考えていただける姿勢がありがたかった。
		○命の尊さを感じられる保育内容		○ 園内外の研修会等に参加し教師自身の人権意識を高め自らの言動を振り返ると共に差別を見逃さないように努めた。また、不適切保育防止の観点から、職員の人権擁護の振り返りを実施し、子どもを尊重する保育に努めた。 → 年度当初計画していたが、日程変更することがあった。定期的に研修に努められるよう高い意識をもって全職員で進められるようにする。	
課題教育	校種間の連携	○連携の意義を明確にした交流や教職員間の協議の機会の充実	A	○ 今年度は長尾小学校1年生の教諭に保育を見に来ていただき、幼児の遊びを通しての学びや、小学校以降の学びにつながる力について協議することができた。同じ観点や指標を用いて話すことで、互いに学び合うことができた。	○ 長尾小学校をはじめ、近隣小中学校との新たな連携を考え、工夫して取り組んでいたことがとても評価できる。プレ1年生では小学校も交えた交流をされたり、給食体験や教師の授業交流もされたりし、人とのふれあいから育まれるあこがれや思いやり、感謝の気持ちなど経験させていただけたことがありがたい。
				○ 長尾小学校との連携を増やし、給食交流、運動会前の参観、授業参加等、地域の学校とのつながりが深まった。「プレ1年生」では長尾小学校1年生とも交流し楽しくふれ合うことができ、小学校への期待や親しみにつながった。	
	特別支援教育の推進	○個別の教育支援計画・指導計画に基づいた幼児の発達に即した支援内容の工夫	B	○ 園内研究会やカンファレンスを実施し、支援を要する子どもたちの実態について共通理解し、具体的な目標や手立てについて協議し、共有することができた。	○ 個別の指導計画の作成、記録に努め、教師が、子ども一人一人の課題を共有していることが評価できる。また、支援のこどもにあった教材を作成し、楽しめる工夫を考えられているところが素晴らしい。先生方の努力には頭が下がる思いです。
		○ 一人一人の興味や必要性に応じた有効なツールなど、教材研究を深め適宜活用した。		○ それぞれの特性を、的確に受け止めておられ、園全体でサポートしているので、子どもたちのかかわりも温かく、みんながつながっていることが感じられる。行事毎に支援の必要な子どもたちの成長が見られ、また、周りの子どもたちのかかわり方も変化し、大変感動した。	

独自項目	地域特色を活かす	○「人・自然・文化」とのかかわりを大切にし、幼児の実体験を通してつながりを深める保育を推進	A	○ 長尾地域の特色やよさを子どもたちが知り、大切にしていこうとする気持ちが育めるよう、年間を通して保育の中に取り入れてきた。だんじり、山での遊び、木接ぎ、野菜や花の栽培のための植木屋への買い物、餅つきやかまどでの煮炊き、消防署との交流、平井車庫見学、地域の和菓子屋のお菓子を食す等、自分たちで実際に体験する中で、人とのつながりを感じ、感謝する気持ちや地域を愛する気持ちが膨らんできている。	○ 保護者アンケートからも分かるように、今年度も人と自然と文化をつなぐ貴重な経験をたくさんさせてもらい、大変満足している。北側の山で体験したことがその美の中で表現されたり、地域のお店に買い物に出かけ、自分で選んだ花を育てたり、地元のお菓子屋さんのお菓子を食べたりするなど、なかなか家庭ではできていない長尾地域ならではの保育をしていただけで、大変評価できる。
	発達に即した保育	○子どものやりたい意欲を大切にし、ひとりひとりに添った保育の工夫 ○職員の組織力を高め、チームで保育に取り組む	A	○ 子どもの興味・関心や想いに沿った保育をするために、子どもひとりひとりの楽しさや得手不得手、性格、成長と課題を丁寧にみとることが必要なため、日々の保育を多面的に見て、職員間での協議を重ねてきた。 ○ 教師自身が今までやってきたことにとらわれすぎず、今何が必要なのか、今何が楽しいのかを感じ、「まずやってみよう！」とする気持ちを軸とし、記録を基にしたたり、何気ない会話からも常に子どもの育ちについて話題にしたたりし、環境の再構成や次の日のスモールステップへとつなぐことができた。それぞれの立場の職員がそれぞれの立場から支援し、全員で保育にあたるチーム力、組織力が益々強くなった。	○ 研究発表を聞き、日々の先生方の取り組みや願い、カンファレンスなどを知り、驚くことばかりであった。日頃の保育で見えている部分と、見えない影での仕事に、子ども丁寧に見取り支えてくださっていることに感謝の気持ちでいっぱいである。このような取り組みの話をもっと保護者が聞いたりする機会があればよいと思う。 ○ すべての先生方が力を合わせて保育のあたられていることが伝わっているので、大変評価できる。

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

保護者や来賓に行事ごとにアンケートを取り集計をまとめており、意見や感想に対して1つ1つ丁寧に園の見解を載せている。また、評議員や来賓等、外部の意見も参考にしていることで適正に実施できている。

6 総合的な学校関係者評価

○ 地域、保護者からも長尾幼稚園は活気があり、子どもたちひとりひとりを丁寧に見取ってくれ、温かく育みとても信頼できる幼稚園であり公立幼稚園のよさを改めて感じると評価していただいている。常に子ども主体で、人とのつながりを大切にし、地域や保護者と連携しながら開かれた幼稚園づくりをされていた。常に子どもと真剣に向き合い心を動かしてもらっていることが伝わってきた。「やりたい気持ち」をしっかりと育てていたと評価できる。また、毎日のホームページの更新、ドキュメンテーションに加え、ホワイトボードを使った新たなカンファレンスへの取り組みなど、研究発表を通してでも先生方の努力に頭の下がる思いである。特別支援の必要な子どもへのかかわりでも、一人一人の課題に向き合い、教師間で連携され丁寧に対応されている。評価の中で「B」をつけられているところがあるが、園の取り組みや努力は素晴らしく、すべて「A」でよい。異校種との連携では新たな取り組みもされており、地域の核として今後も継続していただきたいと願っている。未就園児へこの取り組みがもっともっと広がればよいが何か新しい方法はないかと思う。通園についての柔軟な措置や給食提供など改良が見込めるところから市教委と連携し進めていけるとよい。幼児教育の質を高めるために取り組まれていることを聞いているだけでも、現場の仕事量が大変増えていることが想像できる。先生方においては、体調が一番。くれぐれも無理のないよう時間管理と健康管理をしていただきたい。